

# I 調査結果の概要



項目	電子書籍	音楽	映画	漫画	小説	雑誌	文庫
年齢層	10代						
性別	男女						
学年	高1	高2	高3	高4	高5	高6	高7
会員登録	はい						
定期購読	はい						
購入回数	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回
購入額	100円	200円	300円	400円	500円	600円	700円
購入頻度	毎日	毎週	毎月	毎季	毎年	年に数回	年に1回
購入目的	娯楽	情報収集	知識获取	知識获取	知識获取	知識获取	知識获取
購入手段	電子書籍	音楽	映画	漫画	小説	雑誌	文庫
購入方法	オンライン	オフライン	オフライン	オフライン	オフライン	オフライン	オフライン
購入場所	専門店						
購入回数	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回
購入額	100円	200円	300円	400円	500円	600円	700円
購入頻度	毎日	毎週	毎月	毎季	毎年	年に数回	年に1回
購入目的	娯楽	情報収集	知識获取	知識获取	知識获取	知識获取	知識获取
購入手段	電子書籍	音楽	映画	漫画	小説	雑誌	文庫
購入方法	オンライン	オフライン	オフライン	オフライン	オフライン	オフライン	オフライン
購入場所	専門店						

# 1 米

## (1) 要 旨

平成19年産水陸稻の収穫量は、水稻が870万5,000t、陸稻が9,370t、水陸稻合計で871万4,000tで、前年産に比べて15万8,000t(2%)増加した。これは、水稻の作付面積が1万5,000ha(1%)減少したもの、10a当たり収量が前年産を15kg(3%)上回ったためである。

水稻の作柄は、全国平均で作況指数99、10a当たり収量は522kgとなった。これは、7月の低温・日照不足の影響によりもみ数が平年並みないし少なく、登熟期間は全体的に高温・少雨傾向で推移し、関東以西の登熟はやや抑制されたものの、秋雨前線や台風の被害が少なかったためである。

陸稻の作柄は、主産地の茨城県の生育・登熟がおおむね天候に恵まれ、干害等の被害も少なかったことから、全国平均で10a当たり収量は257kg、10a当たり平均収量対比は108%となった。

平成19年産水稻の被害量は85万1,200t、被害率は9.6%で、平年に比べて0.3ポイント上回り、前年産に比べて2.4ポイント下回った。

(表1-1、図1-1)

図1-1 水稻の作付面積及び収穫量の推移(全国)

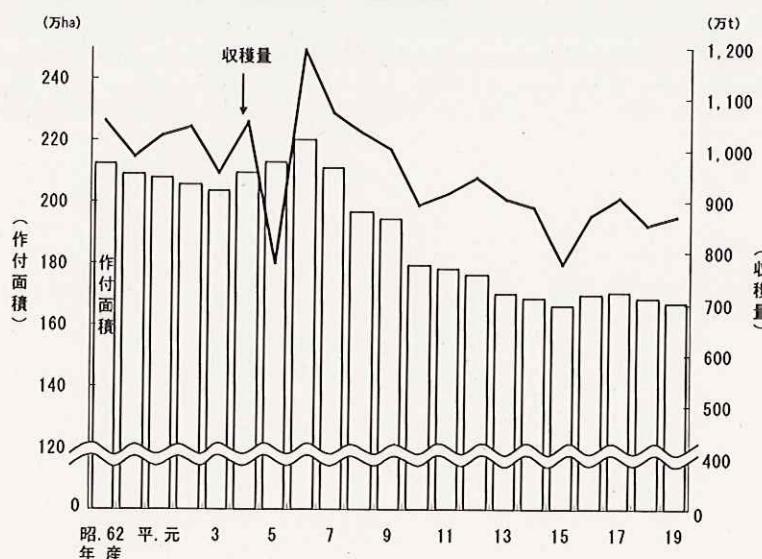


表1-1 平成19年産水陸稻収穫量

全 国 農業地域	作付面積 千ha	10a 当たり 収量 kg	収穫量 千t	作況 指 数 (対平年比)	前年産との比較				被 害										
					作付面積		10a当たり収量		収穫量		被害面積 千ha	被害 実面積 千ha	被害量 千t	被 害 率					
					対 比	差 対 比	対 比	差 対 比	対 比	差 対 比				本 年	対 平 年 差 対 前 年 差 ポイント	本 年	対 平 年 差 対 前 年 差 ポイント		
水陸稻計	1,673.0	-	8,714.0	- △ 15.0	99	-	158.0	102	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
水 稲	1,669.0	522	8,705.0	99 △ 15.0	99	△ 15.0	99	103	159.0	102	4,209.0	1,595.0	851.2	9.6	0.3	△ 2.4	9.6	0.3	△ 2.4
北 海 道	116.0	520	603.2	98 0.6	101	93	△ 40.7	94	200.4	102.6	73.2	11.9	1.5	7.5	7.5	7.5	7.5	7.5	7.5
東 北	433.8	560	2,431.0	101 △ 6.0	99	102	17.0	101	980.1	420.5	204.6	8.5	△ 2.4	△ 1.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5
北 陸	215.6	529	1,140.0	99 △ 0.6	100	99	△ 17.0	99	507.3	215.5	52.7	4.6	△ 0.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
関 東・東 山	309.3	524	1,620.0	98 0.2	100	102	38.0	102	662.1	284.7	170.3	10.3	2.1	△ 2.5	10.3	10.3	10.3	10.3	10.3
東 海	107.1	494	529.2	98 △ 1.1	99	100	△ 4.7	99	310.9	104.9	45.1	8.4	2.0	0.3	8.4	8.4	8.4	8.4	8.4
近畿	113.1	503	569.1	99 △ 1.1	99	101	△ 0.5	100	273.9	99.0	41.6	7.2	△ 0.4	△ 0.4	7.2	7.2	7.2	7.2	7.2
中 国	119.0	498	592.2	96 △ 1.9	98	102	△ 0.1	100	360.4	116.0	69.3	11.3	4.1	△ 1.0	11.3	11.3	11.3	11.3	11.3
四 国	58.7	479	281.4	99 △ 0.5	99	105	10.6	104	195.7	56.2	31.4	11.0	△ 0.3	△ 4.7	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0
九 州	195.8	478	936.2	95 △ 4.4	98	123	155.8	120	717.0	194.9	162.7	16.5	4.2	△ 17.0	16.5	16.5	16.5	16.5	16.5
沖縄	1.0	282	2.9	91 △ 0.0	98	97	△ 0.2	95	0.6	0.5	0.5	16.4	9.1	4.6	9.1	9.1	9.1	9.1	9.1
陸 稲	3.6	257	9.4	108 △ 0.5	89	104	△ 0.7	93	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...

注：1 陸稻の作況指数欄は、過去7か年の実績値のうち、最高、最低を除いた5か年の平均値(10a当たり平均収量)との対比である。

2 被害面積は被害種類別の面積を合計したもので、2種類以上の被害を受けた場合は重複して計上してある(以下の各表において同じ)。

3 被害実面積は上記2のうち、重複部分を除いた面積である(以下の各表において同じ)。

4 被害率は(被害量÷平年収量)×100である(以下の各表において同じ)。

5 被害率の対平年差は、昭和54年以降の異常値除外平均被害率との差である(以下の各表において同じ)。

## (2) 解説

### ア 作付面積（子実用）

#### (ア) 水 稲

平成19年産水稻の作付面積は166万9,000haで、前年産に比べて1万5,000ha(1%)減少した。

これは、東北、九州等において、他作物への転換等により減少したためである。

(表1-1、図1-2)

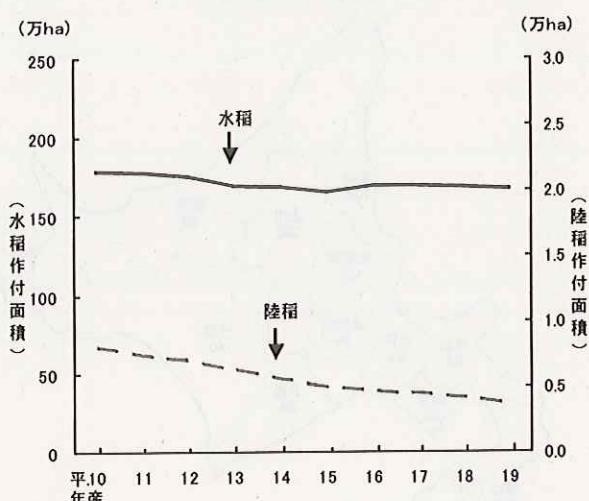
図1-2 水陸稻の作付面積の推移(全国)

#### (イ) 陸 稲

平成19年産陸稻の作付面積は3,640haで、前年産に比べて460ha(11%)減少した。

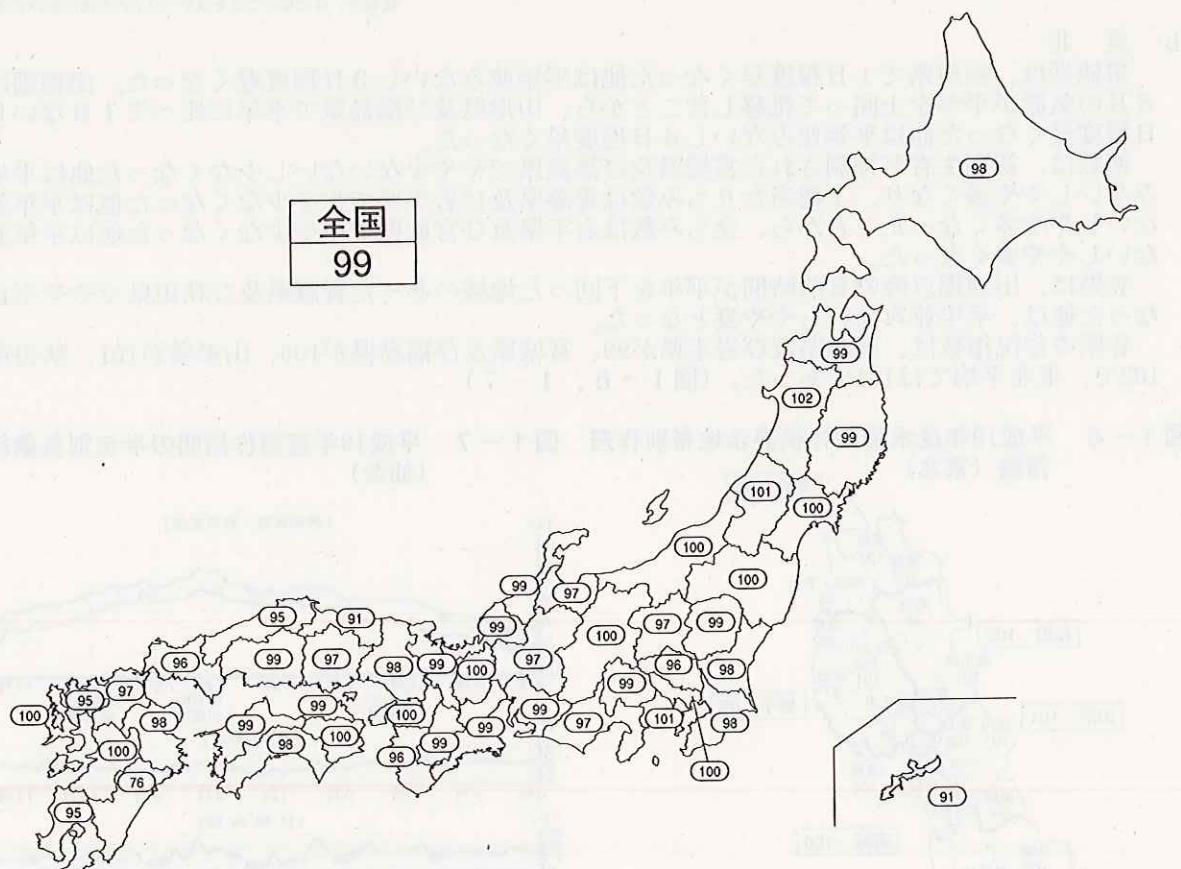
これは、作柄が不安定なことや生産者の高齢化による労働力事情等のためである。

(表1-1、図1-2)



### イ 作柄概況

図1-3 平成19年産水稻の都道府県別作況指数



## (7) 水 稲

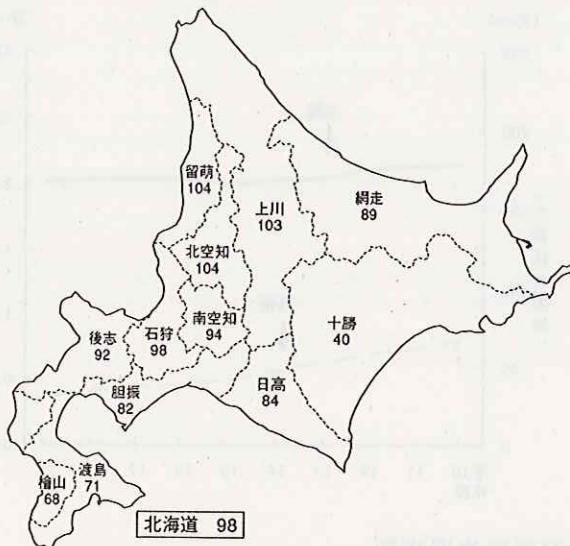
### a 北海道

田植期は、平年に比べて1日程度早くなかった。出穂期は、6月全般が高温・多照で経過したことから平年に比べて4日程度早くなかった。

穂数は、6月全般が高温・多照で経過し分けつが旺盛となったことからやや多くなり、1穂当たりもみ数は平年に比べてやや少なくなったものの、全もみ数はやや多くなった。

登熟は、7月中下旬の低温等の影響により穀実の低下がみられたことから、やや不良となった。北海道の作況指数は98であった。(図1-4、1-5)

図1-4 平成19年産水稻の作柄表示地帯別作況指數(北海道)



注: □内の数値は道平均の作況指數である。

### b 東 北

田植期は、秋田県で1日程度早くなかった他は平年並みないし3日程度遅くなかった。出穂期は、8月の気温が平年を上回って推移したことから、山形県及び福島県で平年に比べて1日ないし2日程度遅くなかった他は平年並みないし4日程度早くなかった。

穂数は、初期生育が抑制された宮城県及び福島県でやや少ないと少なくなった他は平年並みないしやや多くなり、1穂当たりもみ数は青森県及び岩手県でやや少なくなった他は平年並みないしやや多くなったことから、全もみ数は岩手県及び宮城県でやや少なくなった他は平年並みないしやや多くなった。

登熟は、出穂期以降の日照時間が平年を下回った地域のあった青森県及び秋田県でやや不良となかった他は、平年並みないしやや良となかった。

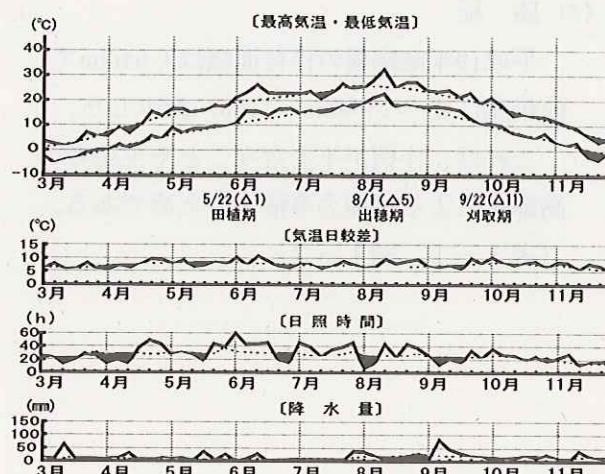
各県の作況指数は、青森県及び岩手県が99、宮城県及び福島県が100、山形県が101、秋田県が102で、東北平均では101であった。(図1-6、1-7)

図1-6 平成19年産水稻の作柄表示地帯別作況指數(東北)



注: □内の数値は県平均の作況指數である(以下の図において同じ)。

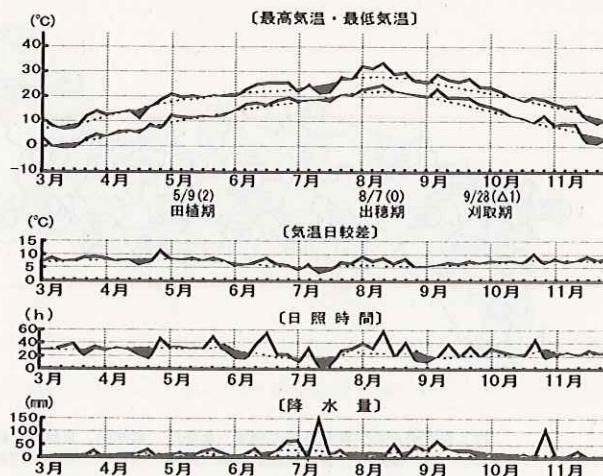
図1-5 平成19年産稻作期間の半旬別気象経過(札幌)



資料: 気象庁「アメダスデータ」の統計部における組み替え結果による(以下の各図において同じ)。

注: 耕種期はそれぞれ最盛期であり、(△)内の数値は平年との比較で、△は早いことを示す(以下の各図において同じ)。

図1-7 平成19年産稻作期間の半旬別気象経過(仙台)



### c 北陸

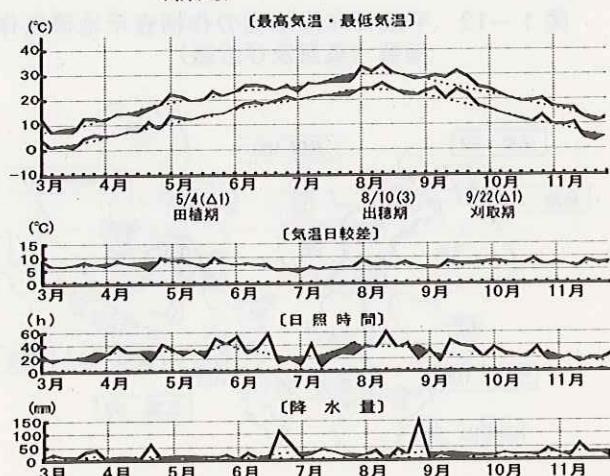
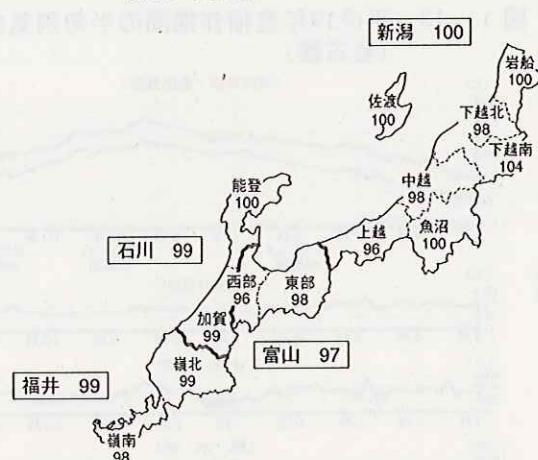
田植期は、新潟県で平年並みだった他は、品質向上を図るために遅植え指導が行われたことから1日ないし2日程度遅くなった。出穂期は、6月から7月にかけて低温・日照不足で経過したことから、平年に比べて3日ないし6日程度遅くなかった。

穂数は、低温・日照不足の影響を受けやや少なくなったが、1穂当たりもみ数は穂数が少なかったことによる補償作用等により平年並みないし多くなったことから、全もみ数は富山県でやや少なくなった他は平年並みないしやや多くなった。

登熟は、出穂期から8月中旬までは高温・多照で推移したものの、8月下旬から9月上旬にかけての日照不足等によりやや抑制されたことから、平年並みないしやや不良となった。

各県の作況指数は、富山県が97、石川県及び福井県が99、新潟県が100で、北陸平均では99であった。(図1-8、1-9)

図1-8 平成19年産水稻の作柄表示地帯別作況指標(北陸)



### d 関東・東山

田植期は、東京都で平年に比べて2日程度遅くなった他は平年並みないし1日程度早くなかった。出穂期は、初期生育に恵まれた茨城県、栃木県、群馬県及び千葉県で平年に比べて1日ないし2日程度早くなかった他は、7月が日照不足で経過したことから1日ないし3日程度遅くなかった。

穂数は、日照不足の影響で分けつが抑制されたことにより平年並みないしやや少なく、1穂当たりもみ数は群馬県及び神奈川県で穂数が少なかったことによる補償作用等によりやや多くなった他は平年並みないしやや少なくなったため、全もみ数は平年並みないしやや少なくなった。

登熟は、出穂期以降の天候に恵まれた千葉県でやや良であった他は、平年並みないしやや不良となつた。

各県の作況指数は、埼玉県が96、群馬県が97、茨城県及び千葉県が98、栃木県及び山梨県が99、東京都及び長野県が100、神奈川県が101で、関東・東山の平均では98であった。

(図1-10、1-11)

図1-10 平成19年産水稻の作柄表示地帯別作況指標(関東・東山)

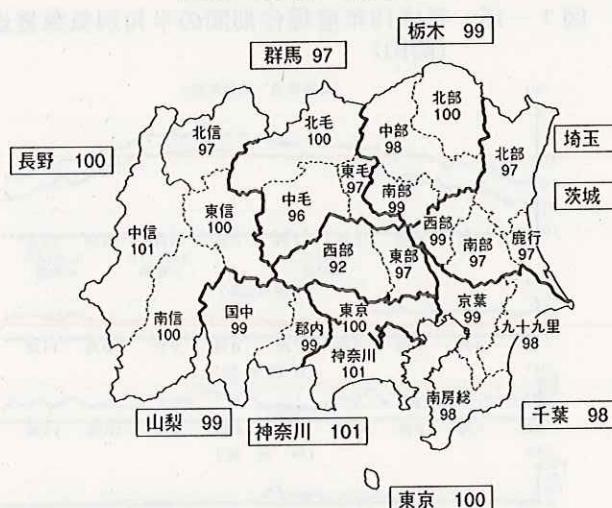
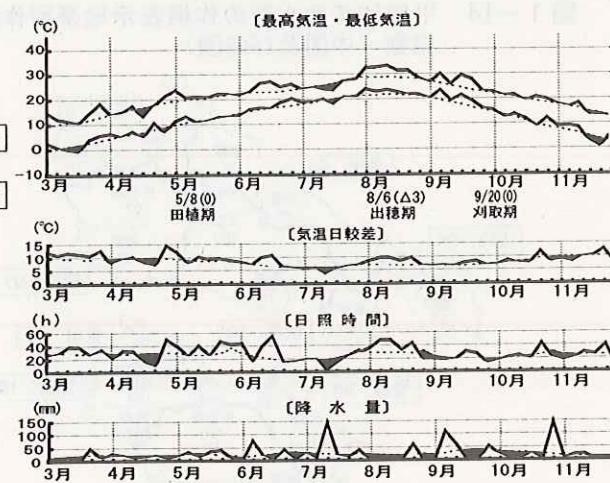


図1-11 平成19年産稻作期間の半旬別気象経過(水戸)



e 東海及び近畿

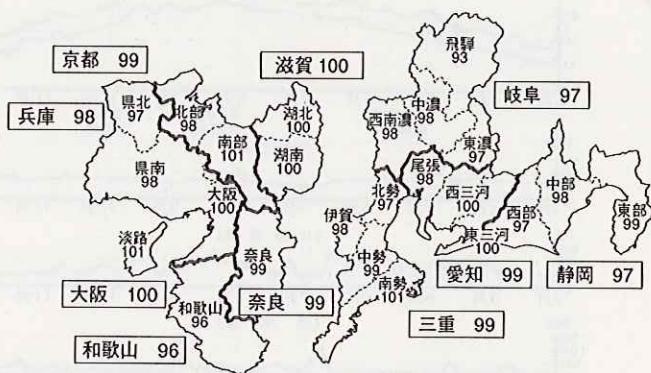
田植期は、品質向上を図るための遅植え指導等により滋賀県及び和歌山県で平年に比べて1日程度遅くなった他は平年並みないし2日程度早くなつた。出穂期は、7月が低温・日照不足で推移したことから、平年並みないし5日程度遅くなつた。

穂数は、愛知県でやや多かった他は7月の日照不足の影響から平年並みないし少なく、1穂当たりもみ数は静岡県、愛知県及び三重県でやや少なくなった他は穂数が少なかつことによる補償作用等により平年並みないし多くなつたものの、全もみ数は平年並みないしやや少なくなった。

登熟は、出穂期以降の天候に恵まれ、おおむね順調であったことから平年並みないしやや良となつた。

各県の作況指数は、和歌山県が96、岐阜県及び静岡県が97、兵庫県が98、愛知県、三重県、京都府及び奈良県が99、滋賀県及び大阪府が100で、東海平均では98、近畿平均では99であった。  
(図1-12、1-13)

図1-12 平成19年産水稻の作柄表示地帯別作況指標(東海及び近畿)



### g 九州及び沖縄

田植期は、宮崎県の早期栽培で1日程度早くなつた他は登熟期の高温障害を避けるための遅植え指導等により平年に比べて1日ないし5日程度遅くなつた。出穂期は、7月下旬以降高温・多照に経過したことから順調に推移し、宮崎県の早期栽培及び鹿児島県の早期栽培で平年に比べて4日ないし7日程度遅くなつた他は平年並みないし2日程度早くなつた。

穂数は、佐賀県、宮崎県の早期栽培及び鹿児島県の早期栽培でやや多いないし多くなつた他は平年並みないし少なく、1穂当たりもみ数は佐賀県、宮崎県の早期栽培及び鹿児島県の早期栽培でやや少ないないし少なくなった他は穂数が少なかつことによる補償作用等により平年並みないしやや多くなつたものの、全もみ数は長崎県でやや多くなつた他は平年並みないし少なくなつた。

登熟は、早期栽培は7月中旬までの日照不足及び台風第4号の襲来による被害が発生したことから不良となり、普通期栽培は登熟期の高温の影響を受けた佐賀県及び長崎県でやや不良となつた他は平年並みないしやや良となつた。

各県の作況指数は、宮崎県が76、佐賀県及び鹿児島県が95、福岡県が97、大分県が98、長崎県及び熊本県が100で、九州平均では95であった。

沖縄県は第一期稻がおおむね生育・登熟は順調であったものの台風第4号の被害を受けたことに加え、第二期稻も台風第12号及び15号の影響を受け生育不良や不稔粒が発生したことから作況指数は91であった。

(図1-16、1-17)

図1-16 平成19年産水稻の作柄表示地帯別作況指標 (九州及び沖縄)

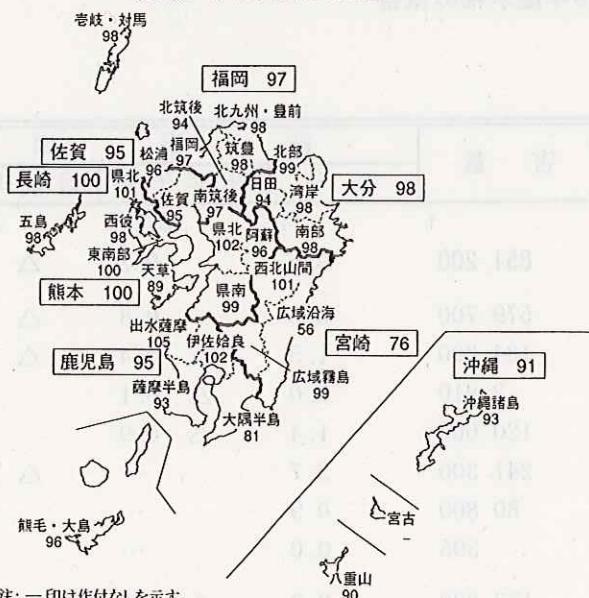
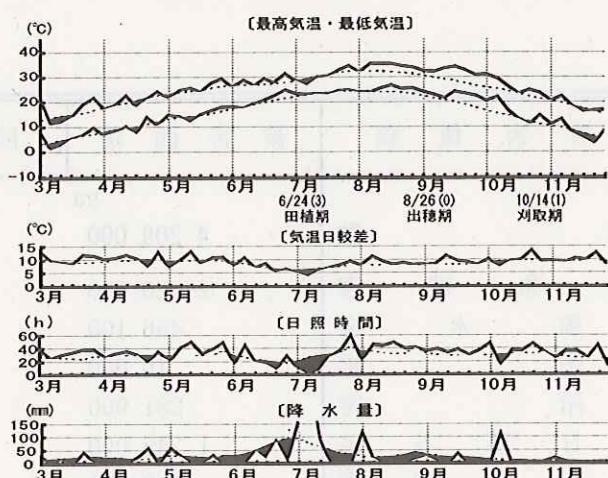


図1-17 平成19年産稻作期間の半旬別気象経過 (熊本)



### (イ) 陸 稲 (主産地域)

主産地である茨城県及び栃木県では、栃木県の一部地域で高温等の影響により作柄がやや不良となつたものの、茨城県ではおおむね天候に恵まれ干害も少なかつたことから登熟は順調であった。

この結果、10a当たり平均収量対比は茨城県が114%、栃木県が97%であった。

(表1-2)

表1-2 平成19年産陸稻収穫量

区 分	作付面積 千ha	10a当たり 収量 kg	収穫量 千t	前年産との比較				(参考) 10a当たり 平均収量対比			
				作付面積 対差 △		10a当たり 収量 対比 △		収穫量 対差 △		%	
				千ha	%	千ha	%	千t	%	千t	%
全 国	3.6	257	9.4	△ 0.5	89	104	△ 0.7	93	108		
うち、茨城	2.4	278	6.7	△ 0.4	87	111	△ 0.2	97	114		
栃木	0.8	245	1.9	△ 0.1	94	94	△ 0.3	87	97		

## ウ 水稻の被害の概要

全国の被害量は85万1,200 t、被害率は9.6%で、平年に比べて0.3ポイント上回った。これは、7月の全国的な日照不足の影響に加え、九州の早期米を中心に台風第4号通過後の高温・乾燥風により脱水症状となった穂が白穂となったり、乳白米、心白米が発生したためである。

被害種類別にみると、気象被害の被害率は6.6%で、平年を0.8ポイント上回った。このうち、風水害の被害率は1.5%で平年を0.4ポイント下回り、冷害の被害率は1.4%で平年を0.9ポイント下回った。また、高温障害の被害率は0.9%で、多くの地域で前年を上回った。

病害の被害率は2.0%で、平年を0.7ポイント下回った。このうち、いもち病の被害率は1.1%で平年を0.5ポイント下回り、紋枯病の被害率は0.6%で平年並みとなった。

虫害の被害率は0.9%で、平年を0.2ポイント上回った。このうち、ウンカの被害率は0.3%で平年並みであったが、九州では1.5%となり、その他の地域に比べて高くなかった。ニカメイチュウの被害率は0.1%で平年並みであった。

(表1-3、1-4、図1-18)

表1-3 平成19年産水稻の被害

被 告 種 類	被 告 面 積	被 告 量	被 告 率		
			本 年	対 平 年 差	対 前 年 差
総 数	ha 4 209 000	t 851 200	% 9.6	ポ イ ント 0.3	△ 2.4
気 象 被 害	2 520 000	579 700	6.6	0.8	△ 2.3
風 水 害	456 100	134 300	1.5	△ 0.4	△ 1.4
干 寒 害	10 900	2 910	0.0	△ 0.1	0.0
冷 害	281 900	120 000	1.4	△ 0.9	0.9
日 照 不 足	1 248 000	241 300	2.7	…	△ 2.6
高 温 障 害	519 200	80 800	0.9	…	0.7
そ の 他	3 620	395	0.0	…	0.0
病 害	849 300	177 200	2.0	△ 0.7	△ 0.2
い も ち 病	314 300	93 000	1.1	△ 0.5	△ 0.2
紋 枯 病	295 900	54 500	0.6	0.0	0.0
そ の 他	239 100	29 700	0.3	△ 0.2	0.0
虫 害	721 900	78 400	0.9	0.2	0.2
ニ カ メ イ チ ュ ウ	62 300	6 570	0.1	0.0	0.0
ウ ン カ	108 400	28 500	0.3	0.0	0.1
カ メ ム シ	124 600	11 600	0.1	…	△ 0.1
そ の 他	426 600	31 700	0.4	…	0.1

注：1 表1-1の脚注参照。

2 気象被害のうち「日照不足」、「高温障害」及び「その他」、虫害のうち「カメムシ」及び「その他」については、平成14年産より気象被害及び虫害について表章区分の見直しを行ったことから、平年差の比較をしていない。

表1-4 平成19年産水稻の被害種類別被害率及び対平年差（全国農業地域別）

単位  
被 壊 率 : %  
対 年 差 : ポイント

全国農業地域・区分		総 数	気 象 被 害				病 害			虫 害				
			風水害	冷 害	日 照 不 足	高 温 障 害	い もち 病	紋 枯 病		ニ カ メ イ ュ ウ	ウ ニ カ	カ メ ム シ		
全 国	被 壊 率	9.6	6.6	1.5	1.4	2.7	0.9	2.0	1.1	0.6	0.9	0.1	0.3	0.1
	対 年 差	0.3	0.8	△ 0.4	△ 0.9	...	...	△ 0.7	△ 0.5	0.0	0.2	0.0	0.0	...
北 海 道	被 壊 率	11.9	10.7	0.3	10.2	-	0.1	1.0	0.0	-	0.2	0.0	0.0	0.1
	対 年 差	1.5	1.5	△ 0.4	2.6	...	...	0.1	△ 0.2	0.0	0.0	0.0	△ 0.1	...
東 北	被 壊 率	8.5	6.4	0.8	2.1	2.8	0.7	1.7	1.4	0.3	0.3	0.0	0.0	0.1
	対 年 差	△ 2.4	△ 2.0	△ 0.5	△ 2.9	...	...	△ 0.5	△ 0.5	0.0	0.1	0.0	0.0	...
北 陸	被 壊 率	4.6	3.7	1.1	0.0	1.8	0.7	0.6	0.2	0.3	0.3	0.1	0.0	0.0
	対 年 差	△ 0.5	0.0	△ 0.7	△ 0.4	...	...	△ 0.5	△ 0.5	0.0	0.0	0.1	△ 0.1	...
関 東・東 山	被 壊 率	10.3	7.0	2.2	0.4	3.8	0.6	2.5	1.4	0.9	0.6	0.1	0.2	0.1
	対 年 差	2.1	2.7	0.2	△ 0.8	...	...	△ 0.8	△ 0.3	△ 0.1	0.0	0.0	0.0	...
東 海	被 壊 率	8.4	4.7	1.0	0.1	2.7	0.9	2.2	1.3	0.5	1.1	0.2	0.2	0.3
	対 年 差	2.0	2.4	△ 0.3	△ 0.1	...	...	△ 0.7	△ 0.5	△ 0.2	0.2	0.0	△ 0.1	...
近 畿	被 壊 率	7.2	3.8	1.4	-	1.6	0.7	2.2	1.2	0.7	0.9	0.2	0.3	0.1
	対 年 差	△ 0.4	1.6	△ 0.2	△ 0.1	...	...	△ 1.6	△ 1.2	△ 0.1	△ 0.4	0.0	△ 0.5	...
中 国	被 壊 率	11.3	7.0	0.9	-	4.6	1.5	2.2	1.1	0.5	1.7	0.1	0.7	0.3
	対 年 差	4.1	3.6	△ 1.1	△ 0.1	...	...	△ 0.4	△ 0.3	△ 0.2	0.6	0.0	0.1	...
四 国	被 壊 率	11.0	5.5	2.9	-	1.2	1.3	2.6	0.8	1.2	2.4	0.2	1.1	0.3
	対 年 差	△ 0.3	1.0	△ 0.6	0.0	...	...	△ 2.2	△ 1.6	△ 0.3	0.6	△ 0.1	0.1	...
九 州	被 壊 率	16.5	9.6	3.8	-	3.4	2.3	3.6	1.1	1.6	3.1	0.0	1.5	0.3
	対 年 差	4.2	3.0	0.1	△ 0.3	...	...	△ 0.3	△ 0.6	0.5	1.4	0.0	0.7	...
沖 縄	被 壊 率	16.4	13.2	13.2	-	-	-	1.1	1.1	-	1.6	-	-	0.9
	対 年 差	9.1	7.2	8.5	-	...	...	0.4	0.4	0.0	1.1	0.0	△ 0.3	...

注：表1-1及び1-3の脚注参照。

表1-18 平成19年産水稻の都道府県別被害率（総数）

